

# 相談室だより(みさき・くろさき 2009年7月)

担当：みさき病院 MSW 三宅

7月も終わりに近づき、一段と暑さが増して、夏本番になってきましたね。  
夏バテしないように皆さん、気をつけてくださいね。ちなみに私は、毎日のようにアイスを食べ、暑さを凌いでいます!(^\_^)!  
おっと腹回りが魔人ブゥ〜に・・・  
暑さ対策に、うちもクールビズを導入してほしい気分です(ToT)/~~~~



**今回は、最近対応件数が増えてきている、中高年の患者様で高次脳機能障害の方について、ご報告したいと思います。**

## 発症後の生活が激変

50代のAさん(女性)は、発症前に会社に勤めておりました。発症後も、仕事復帰をしなくては生活出来ないからと、焦燥感も感じさせながら、発症より1年後に仕事復帰を試みられます。

しかし、高次脳機能障害による、半側空間失認、注意障害、遂行機能障害のため、発症前には、簡単に出来ていた作業が出来なくなっていたのです。そのため、Aさんは、ショックを受け、同時に周りの視線が気になりだされました。

数日間、仕事に行きましたが、フルタイムで働くことは困難である状況が明らかとなりました。そして、最終的には解雇という形になったのです。現在、傷病手当が当面の収入となっています。

50代のBさん(男性)も、発症前に会社に勤めておりました。しかし、Bさんの場合は発症と同時に会社より解雇されました。傷病手当の受給期間も終わり、現在収入がない状況です。

仕事をしたいという思いをお持ちですが、不況の中、50代での職探しは困難を極めます。

2人と面接を実施した結果、共通した部分がいくつか浮き彫りになってきました。

それは、

- ・ 発症により職を失ったこと。
- ・ 当面の収入は傷病手当があっても先々の収入がないため、不安が募ること。
- ・ 高次脳機能障害が、周りのから、なかなか理解が得られないこと。
- ・ 収入減により、受診したくても医療費が払えない。

- ・ 受診出来ないことにより、リハビリの中断や医学管理が中断となり慢性疾患が悪化してしまう。
- ・ 健康状態の悪化により、さらに活動性、メンタル面の低下につながっている。

以上のような、悪循環が見えてきています。何か対応策はないのか、検討していますが、対応策に苦慮している状況です。

現在の対応は・・・

- ・ 自立支援医療の申請により、医療費の減免。
- ・ 身体障害者手帳申請や精神保健福祉手帳の申請の検討。
- ・ 障害年金の申請検討。
- ・ 障害者就業、生活支援センターへの協力依頼。
- ・ 障害者生活支援センターへの協力依頼。

を行っています。

各関係機関と、話し合いを繰り返しながら援助を行っていますが、事例を通じて感じたことは、高次脳機能障害の患者様の生活を支えるシステムがうまく合致するものがないということです。

こういう事例の方は、全国でも増えているのではないかと容易に予測されます。

改めて、社会保障の充実を求める運動が必要であることを考えさせられました。

